

●●● これからの復旧工事の見どころ — 石垣編 —

令和6年度下半期は、平成28年熊本地震で崩落や膨らみ等の被害を受けた石垣のうち、7か所で復旧に向けた工事を行います(表紙/見学エリア地図の 1~7 を参照)。

復旧工事は修理が必要な石垣の解体、崩落した石材の回収、現在は崩れていないものの崩落の危険性がある石材の部分的な回収の3種類に分けられます。

石垣の復旧工事の様子は、熊本城周辺の道路や特別公開エリアからご覧になれます。

工事箇所	工事名称	工事期間(予定)
石垣解体	1 宇土櫓続櫓下石垣解体	令和6年8月~令和7年8月
	2 石門北側石垣解体	令和6年9月~令和8年3月
	3 北東櫓群下石垣解体	令和6年12月~令和8年度
崩落石材回収	4 埋門周辺石垣の崩落石材回収	令和6年8月~令和6年12月
	5 国立病院周辺外石垣の崩落石材回収	令和6年8月~令和6年12月
	6 奉行丸西側石垣の崩落石材回収	令和6年9月~令和6年12月
危険石材回収	7 南大手門下石垣の危険石材回収	令和6年10月~令和6年12月



6 崩落した奉行丸西側の石垣

熊本城 ~復興に向けて~

令和6年度
●●● 秋冬号 ●●●



大小天守と石門周辺の発掘現場

熊本地震における熊本城の被災状況

熊本城全体の石垣：973面、約79,000㎡
特別史跡熊本城跡の土地面積：約578,000㎡

平成28年4月16日 1時25分「本震 M7.3」

種類	被害数量	内容
重要文化財建造物	13棟	倒壊2棟、一部倒壊3棟。他は屋根・壁破損など
復元建造物	20棟	倒壊5棟。他は下部石垣崩壊、屋根・壁破損など
石垣	崩落・膨らみ・緩み 517面 (うち崩落50箇所、229面)	約23,600㎡(全体の29.9%) (うち崩落約8,200㎡、全体の10.4%)
地盤	陥没・地割れ70箇所	約12,345㎡
便益施設・管理施設	26棟	屋根・壁破損など

※前震での被害を含む



被災直後の戌亥櫓と崩落した石垣

熊本城天守閣企画展示 「熊本城と地形・地質~周辺地形・地質の成り立ちとその利用に迫る~」

会期 11月1日(金)~令和7年(2025)4月
場所 熊本城天守閣(大天守)1階
※熊本城の入園料が必要です

平成28年熊本地震後の復旧過程で行った地質調査や発掘調査の成果から明らかになってきた熊本城周辺の地形・地質の成り立ちを詳しく紹介します。



熊本城 復興城主

熊本城の復興を支援して下さる「熊本城 復興城主」を募集しています。1回につき1万円以上寄付された方に「城主証」「城主手形」をお届けします。また、復興城主受付と天守閣4階の芳名板にてお名前が映し出されます。



熊本博物館収蔵品展 「くまはくコレクション かがやけ!熊本の刀と絵画」

会期 10月4日(金)~12月22日(日)
場所 熊本博物館2階 特別展示室1~3
※熊本博物館の入場料が必要です

延寿派や同田貫派の刀剣、細川藩御用絵師を務めた矢野派や近代熊本画壇を牽引した画家たちの絵画を大公開します。前期と後期で作品を総入れ替えするほか、会期中は多数のイベントを実施予定です!



★本展にあわせて、4館連携スタンプラリー(熊本博物館・島田美術館・島原城・玉名市立歴史博物館)を実施します。詳細は熊本博物館HPをご覧ください。

熊本城見学の前に立ち寄りたい! 熊本城の魅力を感じられるミュージアム

熊本城の魅力を多彩なプログラムで発信しています。江戸時代と震災前の熊本城の姿を再現映像で臨場感たっぷりに体感できる大迫力の「熊本城VR」をはじめ、「熊本城被災・復旧プロジェクト」や「被災直後の熊本城内部の映像」など、必見情報が盛り沢山!お城見学とあわせてぜひご覧ください。

料金:入館料 高校生以上 300円、小・中学生 100円

お得 共通入園券がオススメです!

- 2館共通入園券(熊本城・わくわく座)
 - ……高校生以上850円、小・中学生300円
- 3館共通入園券(熊本城・わくわく座・熊本博物館)
 - ……高校生以上1,100円、小・中学生400円



熊本城見学エリア



公開時間、範囲の詳細やイベント情報について、最新情報は熊本城特別公開ホームページをご覧ください。

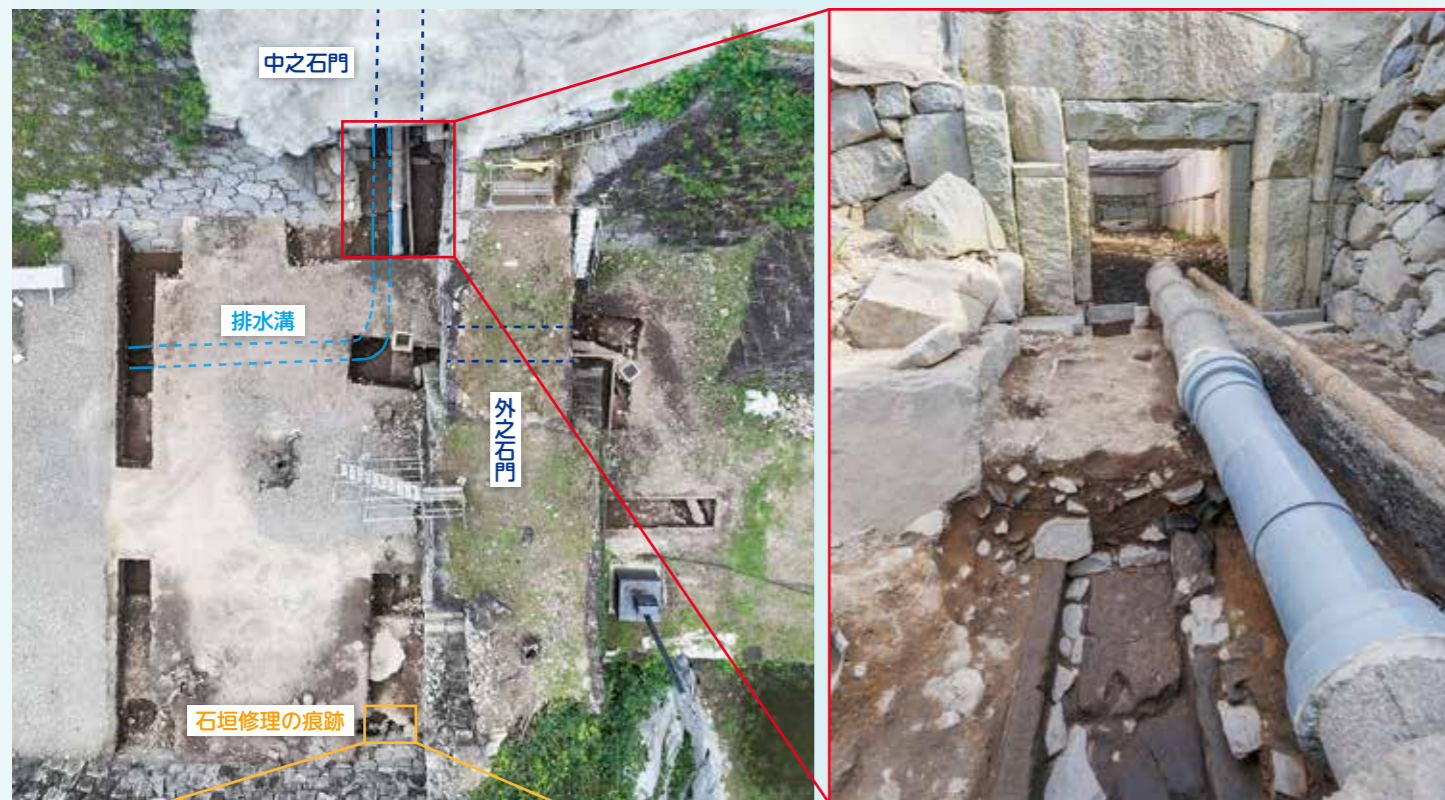
発掘調査で新発見! 石門から延びる排水溝

令和6年(2024)4月から7月にかけて、小天守北東にある石門周辺で、排水経路と周辺石垣の基礎構造を把握するために発掘調査を行いました。

石門は、石垣の下部に造られたトンネル状の施設で、「中之石門」と「外之石門」の2つがあります。中之石門内部の高さは現在の地表から約1.3mと低いこともあり、はっきりとした用途は判明していませんでした。

調査の結果、中之石門内部から延びる石を組んで造られた江戸時代の排水溝が見つかりました。排水溝は、外之石門前で90度曲がって東へ延びています。さらに、中之石門内部の高さは土中に埋まっていた部分を含めると、本来は約1.6mであったことがわかりました。

以上のことから、石門は排水経路と通路の2つの機能を兼ねていたと考えられます。



上空から見た発掘現場(上が南)

中之石門(奥)と調査によって確認した排水溝(中央下)



石門北側にある石垣(右)の修理痕跡



石を組み合わせて造られた排水溝

石垣修理の痕跡

石門北側にある石垣では、修理の痕跡を確認しました。オレンジ色の線は、石垣の前面を約1m幅で掘り込んだ範囲を表しています。掘り込み内の下部には50cm程の石を据えて、上部には20~30cmの石が多量に敷き詰められていました。これらの石は、修理の際に石垣(写真内右側)が動かないように押さえる役割をしていたものと考えられます。

宇土櫓(五階櫓)の解体が進行中です!

令和4年(2022)10月にスタートした宇土櫓五階櫓の解体保存工事は、素屋根の設置を経て、令和6年(2024)1月に本格的な作業に着手しました。

作業は瓦、壁の順に取り外していきます。瓦については一枚一枚調査していくと、中には過去の修理報告書のとおり、江戸時代初期とみられる瓦も確認できました。古い瓦は、傷まないようになるべく「雨水の集まらない」、「乾燥しやすい」上層の東・南・西面や人目に付きやすい1階東側庇および地下1階南側庇に集中して葺かれていました。

壁については土壁の構造を調査してから解体し、また壁の中心部にある荒壁は復旧時に再利用ができる可能性があるため、一部を保管しました。壁の解体が進むと軸組みがあらわになり、昭和2年(1927)の修理時に耐震補強用で設置された鉄骨の筋かいが確認できました。

今後は軸組みの状態を過去に行った修理の痕跡調査や復旧時に必要な寸法等の確認を行った後、全ての部材を解体していきます。



江戸時代初期とみられる瓦(桔梗紋)



瓦に付けられた刻印(元禄十 小山勘)



軸組みがあらわになった宇土櫓(五階櫓)



土壁の解体で見えてきた鉄骨の筋かい

平櫓下石垣の積み直しが始まりました!

令和6年(2024)6月から、国指定重要文化財平櫓の下にある石垣の積み直しを行っています。石垣は高さが約18mと非常に高いもので、平成28年熊本地震の際に、一部が大きく膨らむなどの変形が生じました。この部分を修理するために令和3年度に石垣の一部を解体し、修理方法の検討を経て、積み直し工事が始まりました。

石垣外面の築石は、解体前の写真や図面等を参考に、一つ一つ微調整を繰り返しながら丁寧に積み上げています。また、今後の地震で平櫓や石垣が崩れることがないように、石垣内部を特殊なシートや鉄筋で補強しています。積み直しは、令和7年度に完了する予定です。



微調整を繰り返して石を積む様子



平櫓下石垣の積み直し工事